

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成28年2月2日 (NO.71)



浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所

第3回 浦幌町 小中一貫CS委員会

2月2日(火)、18時30分から小中一貫CS委員会(林常行会長、委員19名)が開催され、今年度の課題と成果、新年度推進計画について協議しました。

取組の成果と課題

- 先生方の努力に感謝したい。チャレンジマラソンや農園活動、スケート教室が素晴らしい。
- 地元の熱い思いを受け止めた教育実践が展開された。
- CS委員の皆さんの多面的なアイデア、力強い支援に勇気を得た。



- 小中一貫教育の実践を通して、教職員の連携が深まり意識が変わってきた。
- 地域の人たちが教育活動に参加し、改善に向けた意見を寄せてくれたことがありがたい。
- CS担当や各部の活動が意欲的になり、学校経営参画意識の高まりを感じた。
- 学校の敷居が低く感じられるようになった。アクションプランづくりの熟議がよかった。
- 花壇整備や給食試食会を通して、寿大学生と児童生徒との交流が広がった。
- 校長先生のリーダーシップ、慶応大学の木幡准教授の指導力が推進力になった。
- 釧路小学校の視察や町PTA研究会を通して、CSの取組の大切さが一層理解できた。
- CS便りの出来ばえが素晴らしい。情報共有や協働の取組を通して、小中の壁、学校と地域との壁が取り払われてきたことを実感している。

- 学校サイドから地域に対し、もっと情報や要望を出していただいたほうがよいのでは。
- 今後は「ともに、協働」の考え方をもって、学校や地域が共通の目標に向かって取組を進める必要がある。保護者の理解・協力が欠かせない。
- ボランティアルームの設置やネームカードの用意など、学校に入りやすい配慮が必要。
- 「学校が地域を変える」というぐらいの気構えが大事ではないか。
- 小中一貫CSの意義を家庭や地域に浸透させていく地道な取組を続けていきたい。
- 今年度作成したアクションプランを学校評価につないでいく取り組みが待たれる。

平成28年度「浦幌町教育の日」の取組

- テーマ「読書の推進と体力の向上」
 - ・第1回教育の日実践交流会 6月18日(土) 9時～12時 「スマホ使用のルール作り」
 - ・第2回教育の日実践交流会 11月5日(土)